

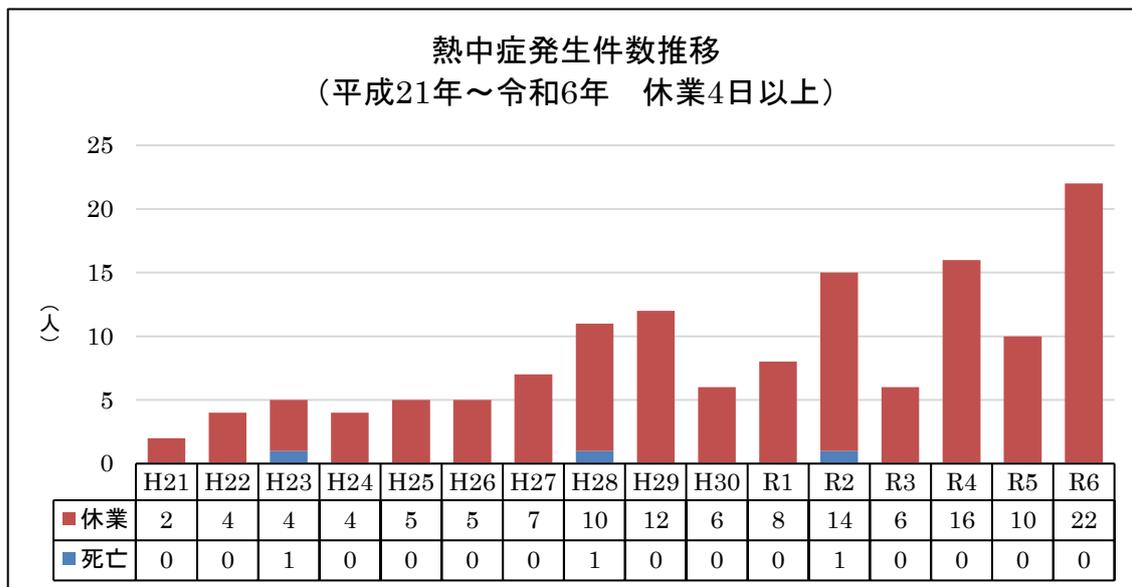
宮崎県内における職場での熱中症による死傷災害の発生状況 (休業4日以上 の労働災害)

1 熱中症による死傷者数の推移(平成21年～令和6年速報値)

職場での熱中症による死傷者数は、平成21年以降の16年間で138人となっており、増減はあるものの長期的には増加傾向にある。

令和6年の死傷者数(速報値)は、前年を大きく上回る22人となる見込みである。

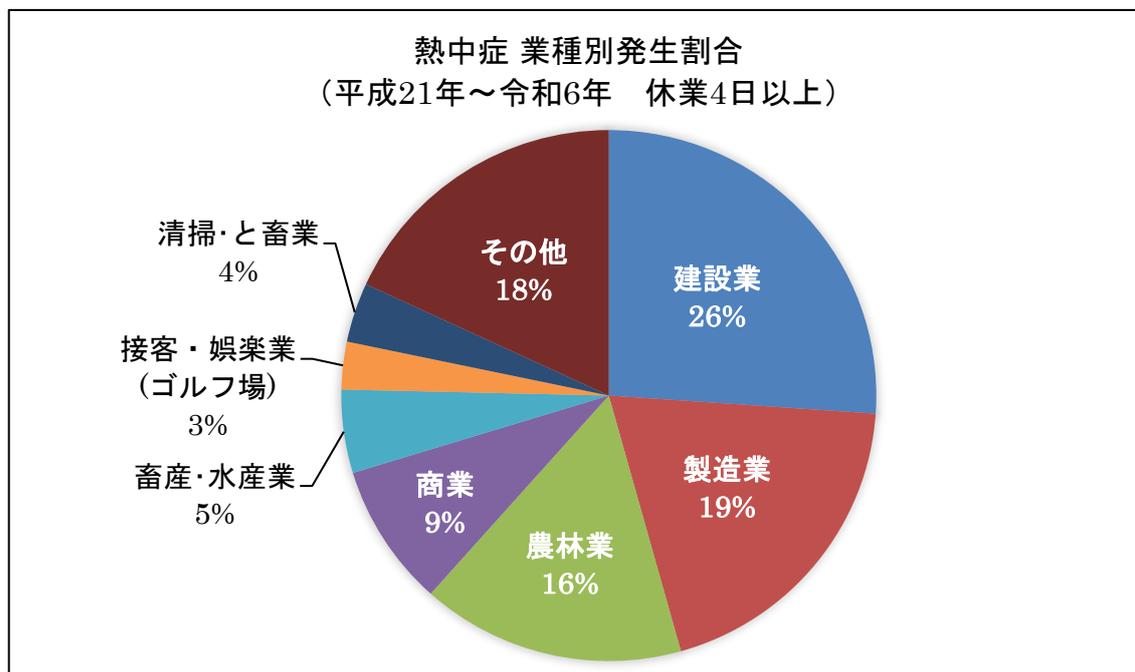
なお、平成21年以降、3人が熱中症で亡くなっている。



2 業種別発生状況(平成21年～令和6年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和6年速報値)の業種別の熱中症の発生状況を見ると、建設業が36人(26%)で最も多く、次いで製造業が27人(19%)、農林業が22人(16%)と続いており、この3業種で全体の6割以上を占めている。

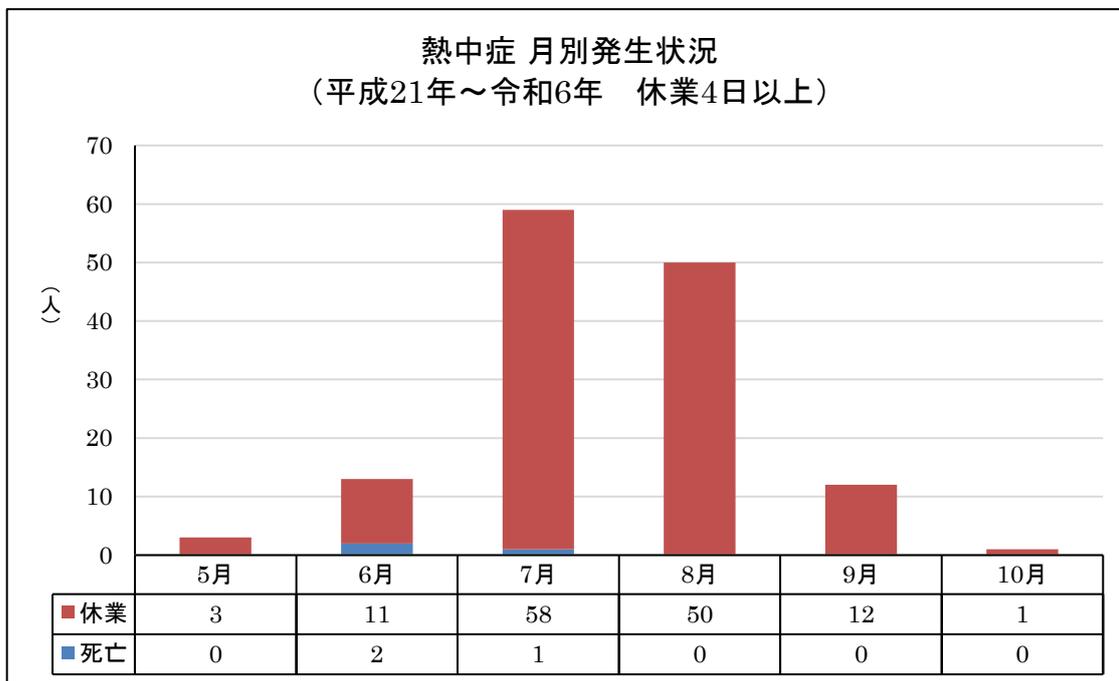
死亡は、林業で2人、建設業で1人発生している。



3 月別発生状況(平成21年～令和6年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和6年速報値)の月別発生状況をみると、毎年、梅雨明け・盛夏の時期となる7・8月に全体の約8割(109人)が発生している。

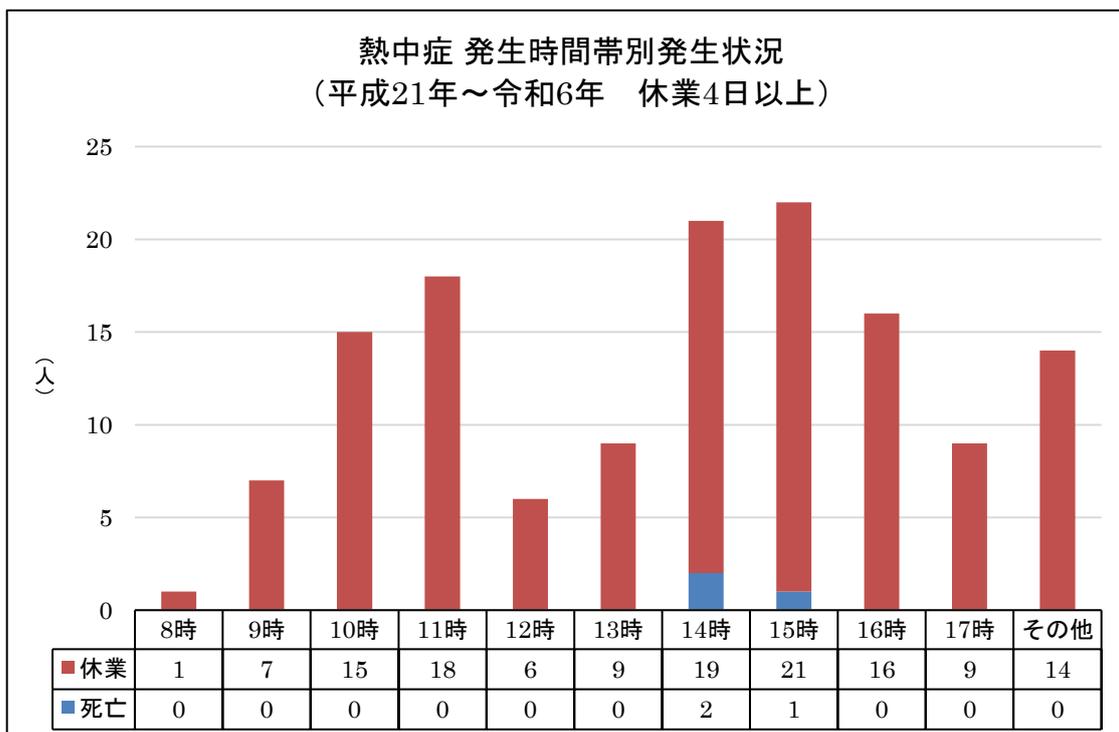
死亡は、6月に2人、7月に1人発生している。



4 時間帯別発生状況(平成21年～令和6年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和6年速報値)の時間帯別発生状況をみると、気温が上昇する10・11時台、気温が最も高くなる14時から16時台が多くなっている。

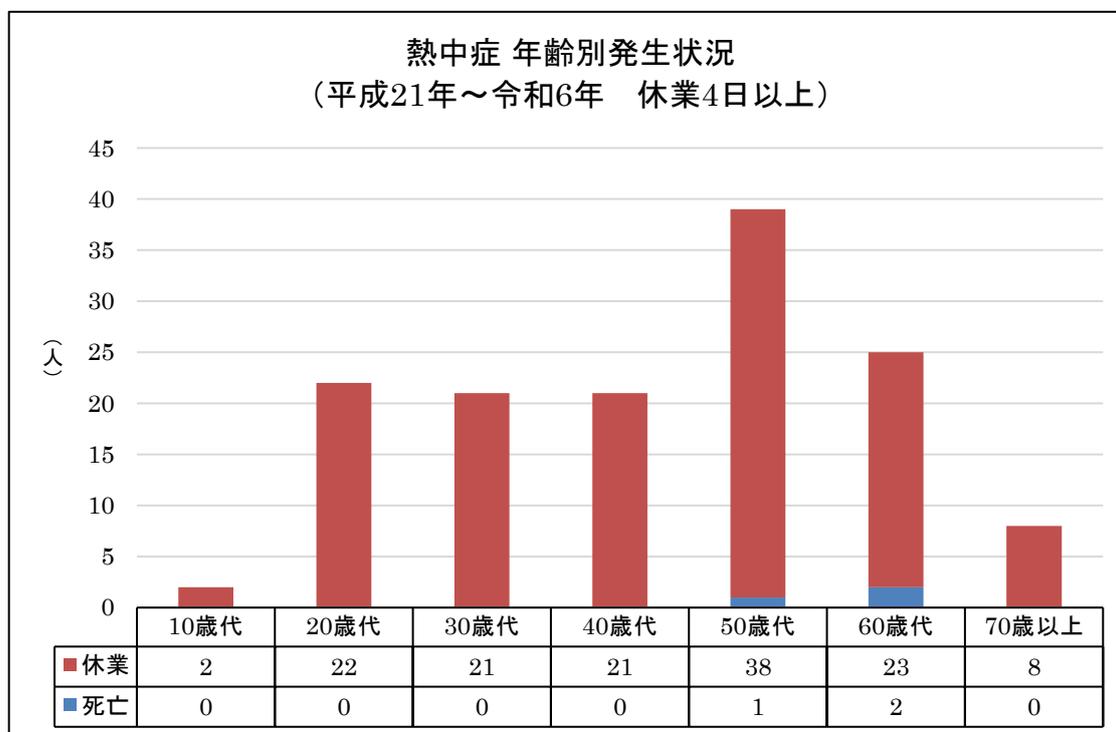
死亡は、14・15時台に発生している。



5 年齢別発生状況(平成21年～令和6年速報値)

平成21年以降(平成21年～令和6年速報値)の年齢別発生状況をみると、50歳代が39人で全体の28%を占めており、次いで60歳代が25人(18%)、20歳代が22人(16%)となっている。

死亡は、50歳代が1人、60歳代が2人となっている。



※ 統計は労働者死傷病報告(休業4日以上)の数値である。

宮崎県内における職場での熱中症による死傷災害事案の概要
(令和6年、休業4日以上 of 労働災害)

番号	年	月	業種	年代	事案の概要
1	R6	7月	農林業 (林業)	20歳代	山林で下刈作業を行っていたところ、全身が硬直し、嘔吐、自力歩行が困難になった。【休業5日】
2	R6	7月	その他の事業 (警備業)	60歳代	小売店で駐車場整理の業務を行っていた。昼休憩後に左足に痺れがあったが業務を継続したところ、約10分後に具合が悪くなり、日陰で休もうと座った際に一時的に気を失った。【休業25日】
3	R6	7月	製造業 (その他の製造業)	60歳代	空調設備の無い工場内での製品袋詰め作業後に昼休憩をとっていたところ、手足の攣りや大量の発汗などの症状を発症した。【休業3週】
4	R6	7月	運輸交通業 (道路貨物運送業)	30歳代	倉庫内において、台車への積込作業を行っていたところ、足が攣り始めるなどの初期症状が出た。【休業16日】
5	R6	7月	その他の事業 (警備業)	70歳代	交通誘導を行っていたところ、吐き気があり気分が悪くなったため、交代しようとした際に意識がなくなり、後ろ向きに転倒した。【休業5日】
6	R6	7月	運輸交通業 (道路貨物運送業)	30歳代	管理者が、作業行っていた労働者の体調の異変を察知し確認したところ、体の火照りと吐き気があったため休憩室で休ませていたが症状が変わらず、救急搬送した。【休業4日】
7	R6	7月	商業 (小売業)	50歳代	午前中に屋外の展示スペースで試乗車や中古車の展示アレンジを行い、昼食後に洗車を行った。その後、接客を行っていたところ、ふらつき、卒倒した。【休業10日】
8	R6	7月	農林業 (農業)	60歳代	草刈り作業中、めまい、吐き気、手足が攣る症状が現れた。【休業3週】
9	R6	7月	建設業 (建築工事業)	50歳代	現場内の資材置場で型枠材を片付けていたところ、気温が高く、養生鉄板の上で作業していたため、熱中症の症状が現れた。【休業5日】
10	R6	7月	畜・水産業 (畜産業)	50歳代	午前中に牛舎周りの草刈り作業を行った。その日の勤務を終え午後5時に帰宅した。翌朝、自宅にて嘔吐し、体がだるく動けなかったため、救急搬送した。【休業12日】
11	R6	7月	建設業 (建築工事業)	50歳代	新築工事現場において型枠組立作業を行っていたところ、午後4時過ぎに体調不良のため、救急搬送した。【休業9日】
12	R6	7月	商業 (その他の商業)	40歳代	流れてくるケースをカートに載せる作業を行っていたところ、頭痛、吐き気、ふらつきの症状が発症した。体を冷やしたが意識が朦朧としたため救急搬送した。【休業6日】

番号	年	月	業種	年代	事案の概要
13	R6	7月	商業 (その他の商業)	40歳代	営業所ヤードにて作業中、17時10分頃に体調が悪くなり、水分を取り、体を冷やしたが全身が攣り始め、意識が遠くなった。同僚が気付き、救急搬送した。【休業4日】
14	R6	8月	畜・水産業 (畜産業)	30歳代	鶏舎の中で作業中、足が攣ったためスポーツ飲料や塩飴を摂取し作業を継続したところ、足や口が痺れを発症したため、救急搬送した。【休業4日】
15	R6	8月	製造業 (化学工業)	50歳代	クレーンを操作し、設備の移動作業を行っていた。休憩後、同様の作業を行っていたところ、意識が朦朧となり、救急搬送した。【休業6日】
16	R6	8月	畜・水産業 (畜産業)	30歳代	鶏舎にて集卵作業を行っていたところ、体調不良により退社した。帰宅後も体調不良が続いたため、救急搬送した。【休業5日】
17	R6	8月	運輸交通業 (道路貨物運送業)	40歳代	大型トラックへの積込作業を開始して、休憩をしながら作業を行っていたところ、吐き気、手の攣り、めまいが発症し、ホームで転倒した。【休業1週】
18	R6	8月	建設業 (土木工事業)	60歳代	車で移動中に路肩に停車させたため本人に確認したところ、「眠かった」と言ったため、熱中症かもしれないと判断し、病院に搬送した。【休業4日】
19	R6	9月	製造業 (その他の製造業)	60歳代	工場内で作業中、めまいがしたため休憩したが嘔吐し、救急搬送した。【休業2週】
20	R6	9月	商業 (その他の商業)	30歳代	仕分け作業中、手足の痺れと体調不良を感じたため休憩したが改善せず、手が硬直し始めたことから救急搬送した。【休業4日】
21	R6	9月	教育・研究業	20歳代	園庭において、運動会練習用具準備、園児補助、園児の代走として走った後に倒れた。両足の麻痺と痛みのため自力歩行ができず、救急搬送した。【休業4日】
22	R6	9月	建設業 (建築工事業)	20歳代	資材回収や現場確認などの屋外作業が終わり、事務所に戻り冷房の効いた部屋で図面作成を行っていたところ、倦怠感と吐き気が発症し、救急搬送した。【休業6日】